

## 福祉フォーラムへの入会について (2015年度会員募集)

福祉フォーラムは会員制の組織です。参加ご希望の方はご入会をお願いいたします。  
(福祉フォーラム行事は非会員の方も参加可能です)

### 年度会費 (4月1日～3月31日)

2,050円 (税込)

### 入会方法

龍谷大学福祉フォーラムホームページのご入会フォームから手続き、  
または、福祉フォーラム事務局までお問い合わせください。  
申込および入金確認をもって入会手続完了となります。

福祉フォーラム ホームページ：<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/rec/welfare/admission/>

### 会員特典

1. フォーラム事業 (講座、フォーラム等) に会員割引にて参加できます。
2. 本学教員と協力して、新しい研究会の企画や運営に関わることができます。
3. 福祉フォーラムの各種事業案内をお送りいたします。
4. 福祉フォーラム通信をお送りいたします。
5. 龍谷大学図書館を (深草・大宮・瀬田) 利用できます。  
(図書館の利用には別途手続きが必要です)

お問い合わせは事務局 (☎ 077-543-7744) までご連絡ください。

※ FAX でのお申し込みも受け付けております。FAX 077-543-7771 までお申し込み必要事項 (お名前、フリガナ、ご住所、TEL、E-mail アドレス、ご職業 (一般の方 or 本学卒業生、本学学生)、図書館利用カード発行希望の有無) をご記入の上、お送りください。

### お問い合わせ

龍谷大学福祉フォーラム事務局 (REC 滋賀内)

〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷 1-5

Tel 077-543-7744 Fax 077-543-7771

E-mail r-fukushi@ad.ryukoku.ac.jp

ホームページ <http://rec.seta.ryukoku.ac.jp/fukushi/>

JR 琵琶湖線「瀬田」駅下車  
帝産バス「龍谷大学」行き (約 8 分)  
名神高速「瀬田西 IC」(大阪方面から)  
「瀬田東 IC」(名古屋方面から) より  
文化ゾーン方向へ車で約 5 分【駐車場有】  
※駐車台数に限りがあります。



龍谷大学福祉フォーラムは、福祉という切り口から、地域住民や学生、NPO、行政、企業等、多様な立場の人々が集い協働する場を提供し、“共生”をキーワードに、社会のすべての構成員が、生き生きと暮らせる新しい地域づくりをめざして設立され、毎年、福祉フォーラム、共生塾、専門セミナー等を開催しています。

2014年12月13日(土)に「福祉フォーラム2014」、また2015年1月24日(土)に「第12回専門セミナー」が開催されました。今号では、その報告と2015年度の福祉フォーラム会員募集の御案内等を皆様にお伝えします。

龍谷大学福祉フォーラム会長 山田 容

### 福祉フォーラム2014の報告

- テーマ：「わかち合いのまちづくり」  
開催日時：2014年12月13日(土) 13時～16時  
場所：大津市ふれあいプラザホール(明日都浜大津4階)  
シンポジスト：溝口 弘氏 (NPO法人わいわいあぼしクラブ代表)  
坂原 英見氏 (浄土真宗本願寺派 総合研究所研究員)  
神田 浩史氏 (NPO法人泉京・垂井副代表理事)



### 第12回専門セミナーの報告

- テーマ：「精神保健福祉のケースカンファレンスの運営技法」  
開催日時：2015年1月24日(土) 13時～16時  
場所：龍谷大学 瀬田学舎RECホール 小ホール  
講師：荒田 寛 (龍谷大学 社会学部教授)



龍谷大学 福祉フォーラム2014  
「わかち合いのまちづくり」

2014年12月13日、「福祉フォーラム2014 わかち合いのまちづくり」が、社会福祉法人大津市社会福祉協議会の後援を得て、大津市ふれあいプラザホールにて開催されました。

シンポジストは、溝口弘氏（なんてん協働サービス、NPO法人わいわいあぼしクラブ代表、街かどケア滋賀ネット事務局長）、坂原英見氏（浄土真宗本願寺派総合研究所研究員、僧侶）、神田浩史氏（NPO法人泉京・垂井副代表理事）のそれぞれ異なった現場で地域社会における人びととかわり、まちづくりに行動し、心を砕いておられるお三方です。

まず、溝口氏より秋桜舎（小規模多機能型居宅介護）での、先人たちの言葉、「どんなに障<sup>がい</sup>が重くても 誰もが主体的にかつ社会的に生きていく権利がある（糸賀一雄）」、「人と人との関係は いつだって水平で共に支え合っていかなければならない（田村一二）」、「障害ある人も 街や村の中で 仕事や役割を持って 共に暮らす地域をつくろう（池田太郎）」を実現させる取り組みを教えてくださいました。秋桜舎で働く知的障害のある方の一見迷惑に見えることもある行動が生み出す効果（ゆったり感、安心感、生活感）の紹介を通して、現在、介護や保育の場等で「いきいき生活支援員」として働く知的障害のある人が増えていて、そこに「“ならでは”の働き」が生まれているとお話でした。



溝口 弘氏

次に、坂原氏より自坊のある広島県三次市にある寺院の取り組みを中心に、過疎地の中で様々な取り組みをする寺院と地域の事例について紹介していただきました。地域寺院の住職の発心とその意思の継承によって、地域に「ビハラー」（インドの古語で、「身も心もやすらかであること」を意味し、具体的には「僧院」や「安住」をあらわす言葉）をもたらず病院（ビハラー花の里病院）とそこにおける活動（仏婦のボランティア活動、僧侶による法話会）があることなどが紹介されました。また、自坊である東光坊での寺子屋活動（地域の子どもたちを集めたサマーキャンプなどの取り組み）についても紹介され、寺院が次世代育成の拠点となることを示唆されました。



坂原英見氏

最後に、神田氏より、身近な地域づくりにおいても、南北問題や環境問題といったグローバルな社会問題の構造を見据えたうえで取り組んでいくことの必要性をお話しいただきました。日本を含めた“先進国”のライフスタイルがもたらす資源消費の在り方を見直す視点は、外部から取奪する、されることを極力避けて、地域資源をうまく循環させながら豊かな地域を築いていく“<sup>おんぼう</sup>豊社会”の実現の提唱につながります。その具体例として垂井町（揖斐川流域）の“らしさ”を活かすことで無限の可能性が広がる、流域単位で考える地域づくりの取り組みを教えてくださいました。



神田浩史氏

以上、一人30分のお話のあと休憩をはさみ、笠井賢紀福祉フォーラム委員より、フロアからの質問を整理したうえでお三方からお返事を頂いた後、「わかち合いのまちづくり」という観点からお三方のお話しの総括がなされました。



誰にでも役割があるという“ならでは”の働き、過疎地域における寺院の働き、グローバルな視点から地域を見ること、いずれも新しいことを特別にするのではなく「いまあるもの」「いまここにいる人」を大切にし、それをいかに生かしていくかを能動的に考え、受け止め、動いていくことの大切さを伝えています。参加者とわかち合あったまちづくりへの思いをこれからの生活、人とのつながりに結び付けていきたいと思えます。

龍谷大学 社会学部講師 猪瀬 優理

福祉フォーラム 第12回専門セミナー 活動報告  
「精神保健福祉のケースカンファレンスの運営技法」

第12回専門セミナー「精神保健福祉のケースカンファレンスの運営技法」が、2015年1月24日（土）に開催されました。参加者は、滋賀県内の精神保健福祉や障害福祉の現場で活動する社会福祉士や精神保健福祉士と、社会福祉協議会の職員や権利擁護の仕事に携わっている人たちで、参加者の中には龍谷大学卒業生が含まれていました。

プログラムの前半は、事例検討の必要性と職場のチーム作りの方法や、ケースカンファレンスの意義と司会のあり方について講義形式で説明し、後半は演習形式によって演習事例を用いて二つのグループに分かれてグループ討論を行いました。参加者は積極的に討論に参加し、事例の解釈の仕方や当事者や家族をどのように理解するのかということを検討しました。参加者の熱心な話し合いが続き、時間を延長して専門セミナーを終了しました。



龍谷大学 社会学部教授 荒田 寛

